競技審判上の注意

（１）本大会は、公益財団法人日本バドミントン協会令和５年度競技規則、同大会運営規程及び同公認

審判員規程により行います。

（２）審判は、すべての試合において審判有資格者によって行います。対戦チームより線審１名、得点係１名を出してください。

（３）試合進行は流し込み方式（試合番号順に空いたコートに入る）で行います。そのためコートの変更等もあり得ますので、館内のコールにはご注意下さい。

（４）試合が連続する場合は、原則として試合終了後10分後に次の試合を開始します。競技役員の指示に従い、選手は選手招集所にすみやかに集合してください。

（５）バックバウンダリーライン後方にコーチ席2席を設けます。コーチ席に入ることができるのは、

コーチ登録した監督・コーチのみとなります。

（６）コールされたら選手招集所より指定のコートに速やかに移動し整列後はすぐに試合を開始して下さい。

（７）コートサイドに整列後、各試合の始まる前に公式練習（２分３０秒）を行います。

（８）各試合(マッチ)のインターバルは次のとおりです。

①各ゲームにおいて一方のサイドが11点になったとき、60秒を超えないインターバルを認めます。選手は20秒前にはコートに入ってください。

②第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認めます。選手は20秒前にはコートに入ってください。

（９）インターバル中でのアドバイスは、同時に2人までコートに入ってもよいが、審判が「20秒」とコールしたらすみやかにコートから離れてください。

（10）試合(マッチ)中の水分補給、汗拭き、ラケットの交換、靴ひもの締め直し等、プレーを中断する場合は、必ず審判の許可を得てください。なお、氷嚢の使用は、インターバル中のみ認めます。

①ドリンク容器は、倒れてもこぼれない蓋付きボトルを使用し、審判横の指定した場所に置いて

下さい。

②氷嚢は、コーチ席で小型の保冷バッグ（ソフトバック）等に入れ、保管してください。

（11）審判が必要と認めた以外のプレーの中断は、一切認めません。

（12）シャトルの交換については審判が決定しますので、指示に従ってください。

（13）試合中のけがや病気に対しては、審判が判断します。審判が必要に応じて競技役員長(レフェリー)を呼んだ時は、競技役員長(レフェリー)の判断に従ってください。

（14）審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認めません。もし判定に対して疑問のある場合には、次のサービスが行われる前に「質問」をすることができます。ここで質問のできる者とは、当該選手とコーチ席の監督・コーチのいずれか1名に限ります。試合(マッチ)中、インプレーでない時のアドバイスはコーチ席に座って行い、試合(マッチ)中はコートのそばに立っていてはいけません。また、監督・コーチが他のコートに移動したいときは、必ずインプレーでないときに行ってください。

（15）競技フロア内での携帯電話等の使用は、一切認めません。携帯電話等は電源を切るかマナーモードにしてください。

（16）試合中にモバイル機器（ｉＰａｄ・携帯電話等）を使用したアドバイス・コ－チングは禁止します。

（17）試合中の服装は、白または(公財)日本バドミントン協会審査合格品とし、試合時必ず上着の背面中央にゼッケンを付けてください。ゼッケンは縦25㎝以内、横30㎝以内とし、チーム名及び個人名(フルネーム)を明記してください。なお、文字の大きさは高さ6㎝から10㎝を厳守とし、ユニフォームの広告(ロゴ)については、令和3年12月26日付の日小連文書のとおりとします。

（18）監督・コーチは所定の名札（IDカード）を着用の上、服装は公認審判員規程第23条及び第24条を厳守して下さい

（19）その他は、代表者会議における打合せ事項のとおりとします。